

2026 年度 東北大学 前期 国語

一

問
(一)

- (1) 周知
(2) 厳密
(3) 通底
(4) 君臨

問
(二)

異文化との差異の現れを介して自文化の同一性が形成される関係。(30字)

問
(三)

文化が性別のない唯一の普遍的な文化を装い、人々の生き方や考え方を覇権的に規定し続けてきたから。(49字)

問
(四)

男性文化が唯一の文化として支配する現状を批判し、自文化に内在するにもかかわらず否定され忘却されてきた女性的な文化に対するまなざしを促すため。(70字)

問
(五)

支配的な男性文化の内側にとどまりつつ、差異を介して自文化に内在する女性的な原理や言葉の可能性を模索し実体的に捉えること。(60字)

二

問
(一)

- (1) 圧倒されて困惑しながら
(2) 無遠慮に口汚く言いふらす
(3) ぜいたくをする

問
(二)

家庭内の不幸の元凶として嫌われる父に、母がよい待遇をすることに矛盾を感じるから。(40字)

問
(三)

父の陰口を言う親族の女たちを嫌い同調したくはないが家族の連帯から取り残されるのも嫌なので居心地の悪さを感じつつもその場に留まろうとする心情。(70字)

問
(四)

将来を嘱望され立派だった父が戦争体験を経て心を病み、たいして働きもせず家族に侮られ軽んじられる存在になってしまったこと。(60字)

問
(五)

母に不運を嘆かせるほど苦しい思いをさせつつも周囲の嘲笑にも向き合わず自己満足にすぎない玩具で夢を追う浅ましい父への軽蔑。(60字)

2026 年度 東北大学 前期 国語

三

問(一)

- (1) ありのまま
- (2) 何とも言いようがないほど

問(二)

上古の人々が素直な心で詠む歌は、各々の身分に応じた内容に分かれているということ
(40字)

問(三)

したがって、この、和歌が人情の変化に伴って変化するということは、永遠に変わらない和歌の本質であると理解するのがよい。

問(四)

古歌について学び、古人の詠みぶりを真似ることで自然と感化され、虚飾を捨てたありのままの心でいられるようになるということ。(60字)

問(五)

本来、古歌を学び虚飾のない心になって初めて実情の歌が詠めるのに、自分の心が変わらないまま今の虚飾の多い歌を批難すること。(60字)

四

問(一)

- (1) 無位無官の人
- (2) 宿る
- (3) 贈る

問(二)

- (ア) すなわちあえてみずからくつするに
- (イ) やむをえずして

問(三)

拙者は貧乏に苦しんでおり、貴殿たちに加わって、少しばかり飲み食いさせてもらいたいのだが、よろしいか。

問(四)

おそらく秀才どのに笑われてしまうだけでしょう。

問(五)

張斉賢が、誰もが恐れる盗賊にも構わず酒食を求め、豪快に飲み食いしてみせるその様から、宰相にふさわしい大器だと思ったから。